

編集後記

▼「成寿」第三十六号をお届け申し上げます。師父大圓和尚の遷化は当山にとって大変な衝撃でした。一月五日檀信徒葬をいただき、参道を埋め尽した二千七百人あまりの皆様、このお見送りには師父もさぞかし、満面の笑みであったことと思います。

▼終生「善光寺は檀信徒の皆様を支えられていまがある」と申していたことが当日の参道に溢れていたと思います。

▼また当日寒い中、長時にわたって、ご焼香お見送り賜り、まことにありがとうございます。心より感謝申し上げます。当日、又その後、大変取り込み、万般不行き届きのことばかりで、深くお詫び申し上げます。

▼以来当山仏前に本当にたくさんの方々がお越しくださいました。普段ではお会いできない方もいらっしや、改めて師父の広さと深さと偉大

さを認識いたしました。さらに海外からまで多勢お参り頂き、育英会の広がり、国際交流の尊さを感じました。本当にありがとうございます。

▼この号は追悼号とさせていただき、ご縁篤きほんの一部の方々に追悼文をいただきました。在りし日の師父が懐かしく思い出され、涙いたしました。まことにありがとうございます。

▼師父は祖父榎庵白純大和尚を常々深く々々尊敬しておりました。私どもに孝順心の大切さを身を持って示してくれ、病床においても、この号の「成寿」は白純大和尚の二十七回忌を特集して追悼したいと申しおりました。その心を汲み、誌上に師父の思い尽せたかどうか、気になりつつとりあえずホツと致しました。

▼この一年、振り返って一年。まことにいろいろありました。例年通り新年祈祷会に始まり多くの山内行事も無事にとり行うことができました。これも支えてくださった檀信徒、山

内の多くのスタッフの方々の御支援のお蔭です。また例年にも増してたくさん檀信徒の皆様にお参りいただき、励ましていただきましたこと身に沁みております。心より深く感謝申し上げます。私はあまりにも若輩、師父の意を肝に命じ、今後、精一杯、精進してまいります。何卒変わらぬ御法愛、御教導賜りますこと心よりお願い申し上げます。

▼「成寿」発行に関わり、いかに一冊の本を創りあげることが大変であったかということを感じ、師父に対する思いをさらに深く致しました。

博志

成寿 第三十六巻

平成十七年十二月一日発行

発行所 成寿山善光寺

横浜市港南区日野中央一丁目

十二番九号

電話 〇四五(八四五)一三七一

FAX 〇四五(八四六)二〇〇〇

印刷所 神奈川新聞社出版部



